

馳上遺跡第6次発掘調査説明資料

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 平成25年11月26日(火)

調査要項

遺跡名(番号)	はせがみ 馳上遺跡(県番号 202-560・202-562)
所在地	山形県米沢市大字川井字元立・道下
時代・種別	古墳時代、奈良・平安時代、中世 集落遺跡
起因事業	東北中央道(米沢～米沢北間)
調査依頼者	国土交通省山形河川国道事務所
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査	平成25年10月10日から11月29日まで
調査面積	500㎡
調査担当者	調査研究員 草野潤平(現場責任者) 調査研究員 高橋英路
調査成果	検出遺構 河川跡・溝跡・土坑・柱穴 出土遺物 土師器・須恵器・陶磁器・石製品

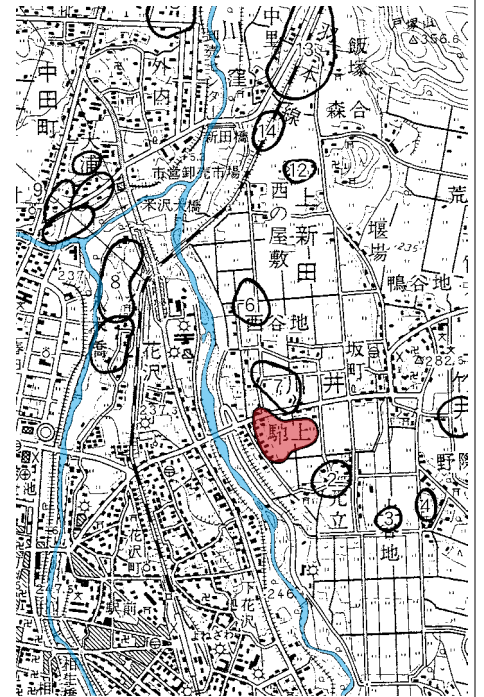


図1 遺跡位置図(1/50,000)

1 調査の概要

馳上遺跡は、最上川の支流である羽黒川右岸の後背湿地上に立地する集落遺跡です(図1・写真1)。これまでの調査で、古墳時代と奈良・平安時代を中心とする生活の痕跡が確認され、大型の建物跡が多く存在することや、硯・墨書土器・木簡といった特殊な遺物の出土などから、古代の役所に関連する遺跡の可能性など、一般的な農耕集落とは異なる性格を持っていたと考えられています。

今年度の調査区は、昨年実施した第4次調査区の南側、平成22年度の第3次調査区の北東に位置します(図2)。今回の調査をもって東北中央道建設に伴う馳上遺跡の発掘調査はすべて完了しました。

2 見つかった遺構と遺物

検出された遺構としては、調査区範囲の大

部分を占める河川跡のほか、溝跡・土坑・柱穴などが挙げられます。馳上遺跡や北に隣接する西谷地b遺跡では、複雑に蛇行する河川跡が幾筋も認められ、古墳～平安時代の遺物が多数含まれることから、これらの河川跡は集落とおおむね同時期に位置づけられます。今年度検出された河川跡は、位置関係から第4次調査区南東側で確認されたものの続きと考えられ、昨年調査結果と同様、この河川跡の堆積土層からは土器などの遺物があまり出土しませんでした(写真2)。河川跡の西岸で検出された土坑(写真3)の上層から9世紀後半の須恵器有台坏(写真4)が出土し、河岸の堆積土がこの土坑上を覆っていたことから、馳上遺跡の盛期を過ぎてから形成された流路と考えられます。河川跡の堆積土上には小型の柱穴が確認でき、西谷地b遺跡を中心とする中世の屋敷地が営まれる頃には埋没していたと想定されます。



写真1 第6次調査区周辺の状況（赤色部分）



写真2 河川跡の堆積状況



写真3 河川跡西岸の土坑と遺物出土状況



写真4 土坑出土の須恵器有台坏

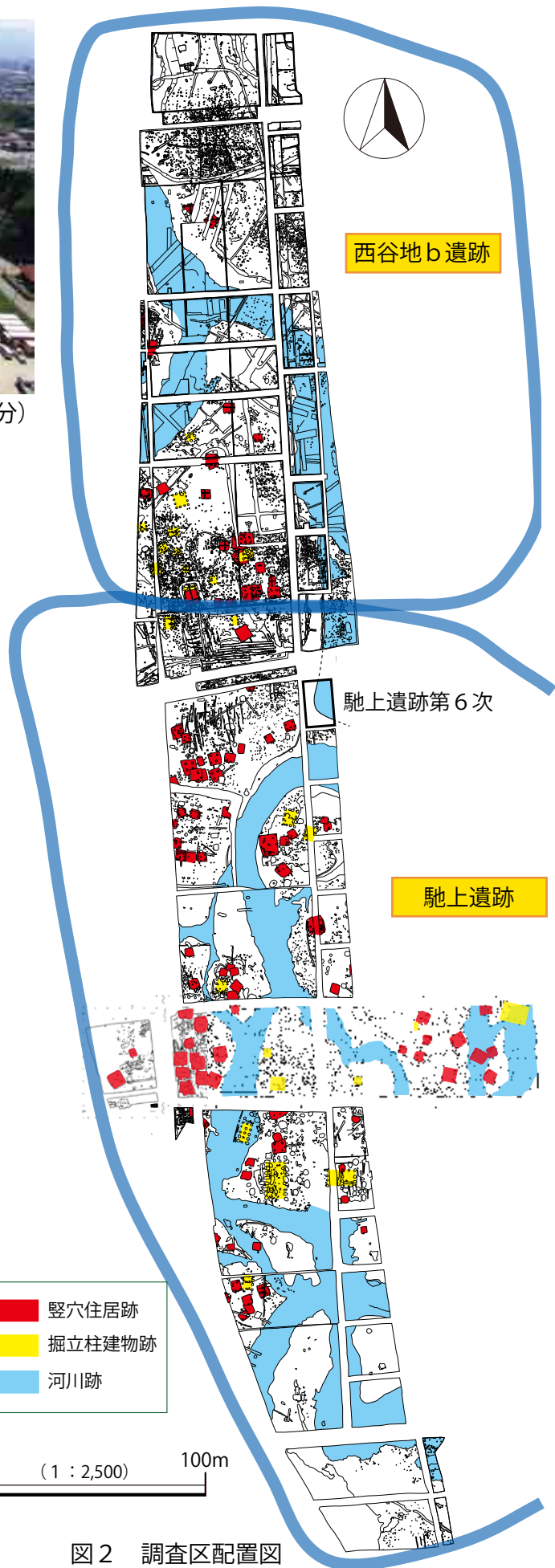


図2 調査区配置図